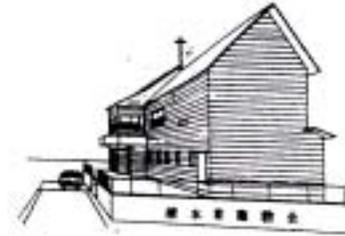


## 《今日の聖書から》

今日の聖書箇所は、『ルカによる福音書』7：11～17です。イエス様の業の一つを記録している箇所です。ナインという町の名が出てきます（旧約聖書では、この場所はエリシャがやはり、やもめの息子を生き返らせた場所、列王記下4章）。その場所で起こった事です。この聖書箇所ではルカは、どんな人でも、何時も隣り合わせに暮らしている、悲しみを持っているという事と同時に、それに加えて、“主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ（13節）”とあるように、キリストが持つておられる“深い同情”を重ね合わせて表しています。そこでまず考えてみましょう。キリストが私たちに寄せてくださる思いと、私たちが持っている悲しみの世界との、どちらが私たちに近いでしょうか。答えるときによっても違うかもしれません。キリストの思いが、私たちとともに、まるで悲しみを誰もが知っているのと同じように、私たちとともに希望としてあるのではないのでしょうか。もう一つ、イエス様の権能について語らなければなりません。世界中の他の神様は、人の心で動かされるようなものではなく、絶対的な力で支配するものですが、主は栄光に輝いているだけでなく、その力として、十分に人に同情してくださることの出来る神様なのです。そしてその力は、死という世界にまで及ぶのです。ここで蘇生（そせい）した若者も、何十年か後には死んだに違いありません。しかし、ここに人々は、新しい神様を見るのです。全能者でありながら“心を深く揺り動かされる神”を見、“人々はみな恐れをいただき、「大預言者がわたしたちの間に現れた」、また、「神はその民を顧みてくださった」と言って、神をほめたたえた（16節）”に、その内容が詳しく記されています。エリシャの事も思いだされたに違いありません。メシヤの世界が人々と関係のない所にあるのではなく、私たち皆、信じるものと共にある事を感じ取ったのです。“信じるものと共にある”ことを聖書は単的に“わたしたちの間に現れた”という皆の声で示しています。救い主の力が、天国に私たちが行ってから体験できるものではなく、クリスチャンという、いま生きて、十分に悲しみということを知っている私たちの力としてあるのです。ここに描かれているやもめや、多くの人々の持つ悲しみや怒りには、たとえいかに大きくても、なにも克服・解決する力はありません。そうではなくて、神様の持っている力と優しさこそが、詩篇に記されているように、“わが足のともしび”となるのです。

# 週報

2007年 7月 8日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸